



平成29年がスタートして、早くも1ヶ月が過ぎようとしています。

正月休みが過ぎた頃から、新聞やテレビなどでは

「大学入試センター試験を控えて・・・」

「いよいよ受験シーズンが到来」

などの情報が頻繁に流されます。本校からも目標を胸に抱いた23名の3年生が、14日土曜日から2日間、鹿児島大学法文学部キャンパスで受験しました。

今年一番の寒波が日本列島を覆い、全国では大雪などのために開始時間の調整が実施されるなど、ニュースや新聞でも大きな話題になりました。幸いにも鹿児島では大きなトラブルもなく、現在は受験校を決め、大学個別試験（二次試験）対策を中心に、各科目の演習に励んでいます。多くの受験生の学力が最も伸びるのは、センター試験後から二次試験までの約1ヶ月間です。最後まであきらめずに粘り強く努力を続けることが大切です。頑張っている生徒に最高の結果が訪れることを期待します。



3年生がセンター試験を終えて口にするのは「本当にこの1年が早かった」ということです。特にセンター試験まであと100日という日から本番までは、「あっという間に過ぎた」と言っています。特に2年生は、まだ先のことと考えず、今からしっかり準備しておくことが大切です。

God doesn't require us to succeed.  
He only requires that you try.

by Mother Teresa

『神様は私たちに成功することを望んでいるわけではありません。ただ挑戦することを望んでいるだけです。』

マザーテレサ』

■あなたがこの瞬間にベストを尽くしているのであれば、それ以上のことは絶対にできないので、どういう結果が出てもベストだったと受け止めるべきです。ベストを尽くした結果がその人にとってベストでないわけがないと思いませんか。■もっと勉強しておけばよかった、と過去を悔いるということは現時点でのベストの過ごし方ではないですね。悔いだけで貴重な時間を無為に過ごすのはもったいないです。前を向いて前進するしかありません。■そして結果が出たときに「少なくとも自分はその時からベストの過ごし方にする！」と決めて過ごしてきたのだから、その延長の『ここ』もまたベストの通過点だと自分自身に言い切ることで。あなたが幸せになるためには現時点から限りなくベストを尽くし続ける以上の方法は1つもないのです。■人間だから楽（らく）したい気持ちや怠けたい気持ちはあります。でも、成功したいなら、目標を達成したいなら、どんな状況でもベストを尽くさなくていいという道理はないはずです。晴れの日も雨の日も全力を尽くすべきです。ともかくここからベストを尽くすのです。やれるだけのことをやるのです。そして、その生き方でいいのだと全面的に肯定するのです。

<進路関係の行事【2月】>

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| □2月 1日（水）～        | 進路決定者自宅学習期間 |
| □2月 4日（土）5日（日）    | 2年生進研マーク模試  |
| □2月 11日（土）        | 土曜講座        |
| □2月 20日（月）～23日（木） | 学年末考査       |
| □2月 25日（土）        | 土曜講座        |

## 大学入試センター試験とは・・・

「大学入試センター試験は、大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするものであり、各大学が、それぞれの判断と創意工夫に基づき適切に用いることにより、大学教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するものです。」(大学入試センターHPより)

実際に大学への進学を考えている人は、どのように捉えればいいのでしょうか。大きく次のようなポイントを知っておいてください。



- ① 国公立大学の一般入試では、大学の指定する教科科目を受験する。この点数と、二次試験の点数から合格者が決定する。
- ② センター試験利用私立大学では、センター試験の点数で合格者を決める形式がある(大学独自の学力試験を問わない)。また、入学後の特待生試験を兼ねる大学もある。
- ③ 大学によっては、一定以上の点数を取れていることが、大学への出願条件になる。

ほとんどのセンター試験受験者は①または②に該当し、入学への第一関門であるということです。

では、どのような試験を実施しているかということ、各教科科目とも全国平均6割程度の基本的学習内容ということです(実際は範囲の広さから難易度は高く感じられる)。全国で約57万人の出願者を誇る国内最大規模の試験なので、社会的な話題性や影響が大きいといえます。

## 『百聞は一見にしかず』という諺(ことわざ)ある。

「富士山はきれいだよ」と言われても、自分で見るまでは本当のすばらしさは分からない。「彼は何事にも熱心だよ」も、実際に受ける印象はどうか分からない。

進学試験の形式が多様化する中で、多くの大学や専門学校で実施されている“面接”。その対策には、想像以上の準備と毎日の生活習慣が影響することを知っているだろうか。

従来は就職試験の際(高卒・大卒共に)が中心だった。最近では、よりよい学生を多方面から評価するため、学業に対する興味・関心・姿勢を確認するために入試科目に面接が取り入れられることも珍しくない。推薦入試やAO入試を中心に取り入れる傾向にある。

時間と労力を割いて実施する面接とは、簡単に言うと自分をアピールする場であると同時に、やる気を試される場でもある。若い君たちが考えるよりシビアな世界だと心得て欲しい。しかし、日常の何気ない生活で鍛えることが十分可能です。例えば「立つ姿勢と歩き方・座り方で普段の生活が見え、準備していないような質問を敢えて投げかけ、考える態度と表情から問題に立ち向かう強さを感じたい。」実際に面接に携わる人は細かに受験生を見ています。髪の色が不自然ではないのか、ズボンやスカートの着こなしはどうか、といった直接会うことのメリットをフルに活用しているという声もある。

質問事項に対する対策の多くは「志望動機」や「将来に向けての展望」、「高校生活の思い出」など自分の気持ちを精一杯表現できる言葉を投げることができれば良いのかもしれませんが。しかし毎日・毎授業時間でのあいさつや、制服の些細な着こなしのクセは、なかなか直せない。特に言葉遣いに関しては、正しい言葉を丁寧に相手に伝えることの難しさは、大人でも戸惑うくらいなのだから。

さあ、今日のこの場から、自分の日常に気を配ってみよう。

「受験を勝ち取るため」だけではなく、「恥ずかしくない社会人」になるための立派な訓練。

何気ない行動が君たちの本質を試しているのですよ。